

# ■平成以降の大きな被害を出した地震

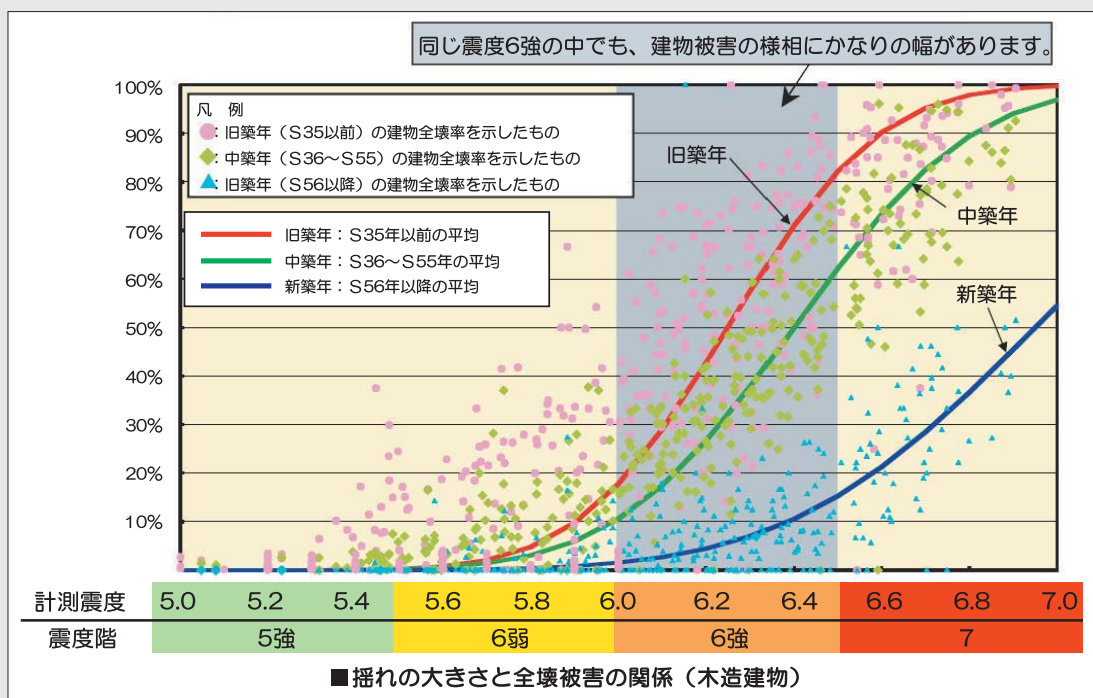
| 発生年月    | 名称                    | マグニチュード | 震度 | 被害 |          |         |
|---------|-----------------------|---------|----|----|----------|---------|
| H5年 1月  | 釧路沖地震                 | 7.5     | 6  | 死者 | 2 全壊     | 53      |
| H5年 7月  | 北海道南西沖地震              | 7.8     | 5  | 死者 | 202 全壊   | 601     |
| H6年10月  | 北海道東方沖地震              | 8.2     | 6  | 死者 | 0 全壊     | 61      |
| H6年12月  | 三陸はるか沖地震              | 7.6     | 6  | 死者 | 3 全壊     | 72      |
| H7年 1月  | 兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）     | 7.3     | 7  | 死者 | 6,434 全壊 | 104,906 |
| H12年10月 | 鳥取県西部地震               | 7.3     | 6強 | 死者 | 0 全壊     | 435     |
| H13年 3月 | 芸予地震                  | 6.7     | 6弱 | 死者 | 2 全壊     | 70      |
| H15年 7月 | 宮城県北部地震               | 6.4     | 6強 | 死者 | 0 全壊     | 1,276   |
| H15年 9月 | 十勝沖地震                 | 8.0     | 6弱 | 死者 | 0 全壊     | 116     |
| H16年10月 | 新潟県中越地震               | 6.8     | 7  | 死者 | 68 全壊    | 3,175   |
| H17年 3月 | 福岡県西方沖地震              | 7.0     | 6弱 | 死者 | 1 全壊     | 133     |
| H19年 3月 | 能登半島地震                | 6.9     | 6強 | 死者 | 1 全壊     | 684     |
| H19年 7月 | 新潟県中越沖地震              | 6.8     | 6強 | 死者 | 15 全壊    | 1,319   |
| H20年 6月 | 岩手県内陸南部地震（岩手・宮城内陸部地震） | 7.2     | 6強 | 死者 | 13 全壊    | 33      |
| H20年 7月 | 岩手県沿岸北部地震             | 6.8     | 6弱 | 死者 | 1 全壊     | 1       |
| H21年 8月 | 駿河湾地震                 | 6.5     | 6弱 | 死者 | 1 全壊     | 0       |

出典：気象庁、消防庁データより

## ■住宅耐震化の必要性

住宅の耐震性は、一般的に古い建物ほど低いといわれていますが、その他にも建物の老朽化や増築あるいは偏って大きな窓があるような配置のアンバランス等が倒壊のしやすさの要因であるといわれています。

住宅は、建築基準法により建築されますが、その法律も過去の地震被害の経験に基づいて改定されてきており、特に、昭和56年の改正では耐震基準の強化がなされています。この建築基準は、兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)の被害の検証からもおおむね妥当な耐震基準であると考えられています。



出典：内閣府(2005)：「地震防災マップ作成技術資料」